

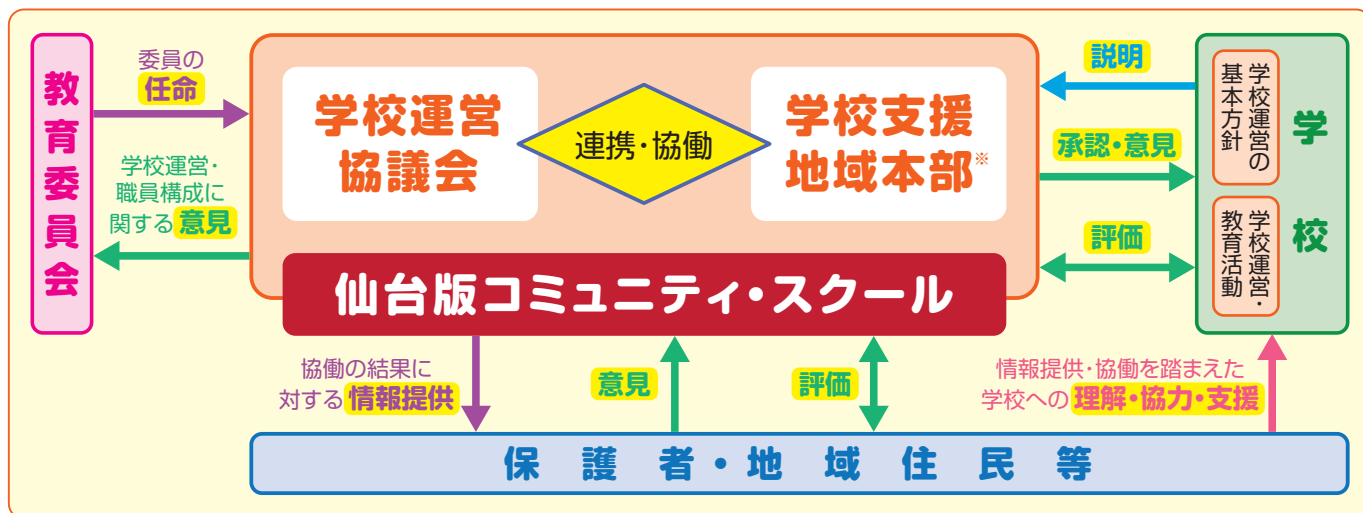
子どもの笑顔・地域の未来のために!

仙台版コミュニティ・スクール



近年、子どもたちの成長過程における多様な人との関わりや社会体験、生活経験などの減少や子どもの規範意識の低下といった問題が顕在化しています。これらの問題を解決し、子どもたちの豊かな成長につなげるためには、学校や家庭、地域が一体となって教育を行うことが一層求められています。

コミュニティ・スクールは、学校・家庭・地域の三者が、学校運営の基本方針や「育む子ども像」を共有し、連携・協働して取り組むための仕組みです。仙台市では、「地域とともに歩む学校づくり」をさらに進めるために、学校支援地域本部を核とした学校と地域の連携・協働による「仙台版コミュニティ・スクール」を、令和5年4月には、すべての市立学校(園)で導入することを目指します。



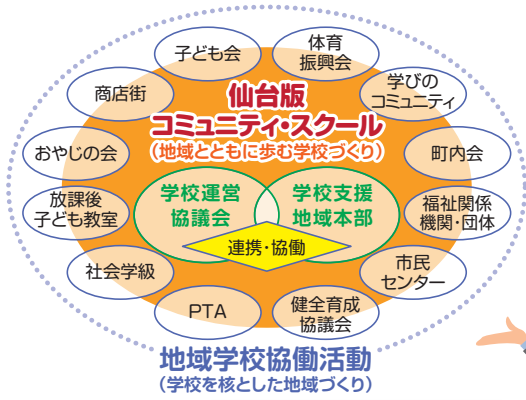
※【学校支援地域本部】とは
地域につくられた学校の応援団で、学校支援地域本部が窓口となり、様々な教育活動をサポートする地域の方を学校支援ボランティアとしてつないでいます。

Q1

うちの子が通う学校は地域と盛んに連携しているけれど、コミュニティ・スクールになると…何が変わるの？



コミュニティ・スクールになることで、これまで地域による学校への「支援」から双方向の「連携・協働」への転換が図られます。「どのような子どもたちを育てるのか」「何を実現していくのか」という学校・家庭・地域が目標・ビジョンの共有を行い、三者が互いの役割を理解・分担しながら、一体となって地域の子どもの成長に関わる体制づくりと豊かな教育環境を創り出すことができます。将来的には、地域の活動が活性化し、学校を核とした地域づくりにつながることも期待されています。



A1



Q2

学校運営協議会ではどんなことを話し合うの？



学校の運営とそのために必要な取組について話し合います。また、話し合いでは、「熟議(熟慮と議論)」の場を設定し、学校運営協議会の委員だけでなく、できるだけ多くの子どもの関わる方々の意見を取り入れ、協働体制をつくります。



A2



Q3

コミュニティ・スクールのメリットはどんなこと？



- ①組織的・継続的な体制の構築**
教職員の異動があっても、学校運営協議会によって地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できる「持続可能な仕組み」です。
- ②目標・ビジョンを共有した「協働」活動**
学校運営協議会や熟議等を通して、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかという「目標・ビジョンを共有」できます。
- ③当事者意識・役割分担**
校長が作成する学校運営の「基本方針の承認」を通して、学校や地域、子どもたちが抱える課題に対して関係者がみな当事者意識を持ち、「役割分担を持って連携・協働による取組」ができます。

A3



子どもにとって

- 子どもたちの学びや体験活動が充実する
- 地域の方に認められる機会が増え、自己肯定感や他人を思いやる心が育つ
- 地域の担い手としての自覚が高まる
- 防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができる

保護者にとって

- 学校や地域に対する理解が深まる
- 地域で子どもたちが育てられているという安心感がある
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できる

魅力

教職員にとって

- 地域の方々の理解と協力を得た学校運営が実現する
- 地域人材に支えられ、教育活動が充実する
- 地域の協力により子どもと向き合う時間の確保ができる

地域住民にとって

- 経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながる
- 学校が社会的なつながりを得られる場となり、地域のよきところとなる
- 学校を中心とした地域ネットワークが形成される
- 地域の防犯・防災体制の構築ができる

お問い合わせ | 仙台市教育局学校教育部学びの連携推進室 ☎022-214-8438

▼コミュニティ・スクールに関する情報はこちらへ

*仙台市教育委員会のホームページ https://www.city.sendai.jp/manabi/kurashi/manabu/kyoiku/inkai/kanren/community_school.html

*仙台市教育委員会 YouTube

ホームページ



YouTube

